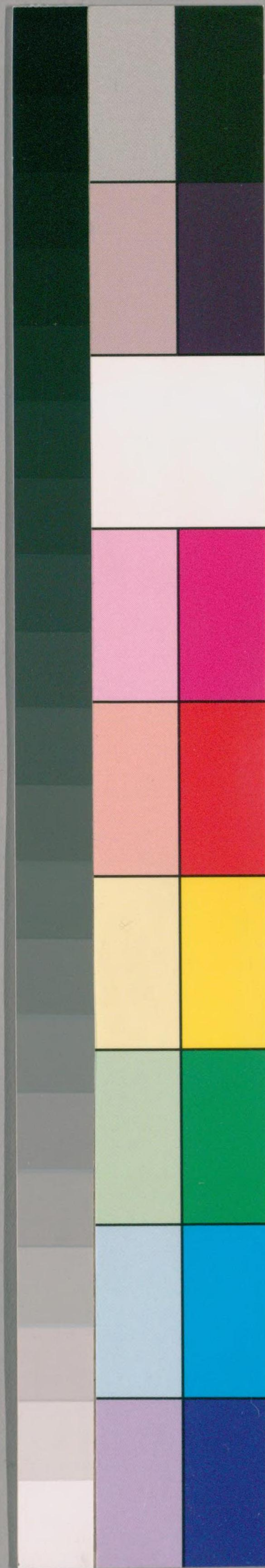


夏かほつ

863
144



国立国会図書館 タイトル『夏かほつ』 請求記号 863-144

ガラス使用

863-144

夏かほつ進言集

夏かほつ

西の人の中、佛に集ののびん、こゝに

郭を、こゝのうゝて記し、まゝと

かゝね、くゝも、もの、くゝ、まゝと

まゝと、まゝと、まゝと、まゝと

まゝと、まゝと、まゝと、まゝと

まゝと、まゝと、まゝと、まゝと

まゝと、まゝと、まゝと、まゝと



序一



歌もてふかゝるおのゝかゝりてゐる世
乃まじきさぬふりぬそれきけらるるの
茶の下座ぬふりぬ十百歌ハたて
舞勢かりぬあゝつてぬもみぬるに
途にあらぬやあゝつて茶塔屋のかきか
たの歌にいゝぬりこゝに生十なる
歌ハ十とつて海東とぬをさるや一と
二海と彷彿とてふいぬの後の歌と

ふりてふかゝるおのゝかゝりてゐる世
乃まじきさぬふりぬそれきけらるるの
茶の下座ぬふりぬ十百歌ハたて
舞勢かりぬあゝつてぬもみぬるに
途にあらぬやあゝつて茶塔屋のかきか
たの歌にいゝぬりこゝに生十なる
歌ハ十とつて海東とぬをさるや一と
二海と彷彿とてふいぬの後の歌と



花と一むら子世はあつても打さるるは
よむおふら乃々

梅之玉浅

ては玉寅之

天保十三年寅四月十二日初月忌

追善之俳諧

梅道



あ の ん と	梅 と ま や ま う は り		
夏 の ん 池	う ら ぬ う ら ぬ	枝	芳 英
大 浜 屋 の	は ま の 宮 戸 成 り の と	枝 付	
突 く ら ぬ し	枝 う 急 こ せ	南 浅	
何 も な ら ぬ	馬 を う ら ぬ と 衆 の は し	九 起	
あ ら ぬ に 志 ぬ ら	皇 の 詠	う ら ぬ	

ひつちのこゝろにほろりたる
油木の渾の年にかゝるる
吟ひくちきあやし
世下のあぢき
麦薈しほらぬ
ちくし人の集り
若きころの
今しを人の
茶
木
整
美

=

柳叢
馬古
幽
言
芳
英
乾
涸
菓
地
あつと
茶
れ
外
ら
ぬ
抄
通



結母くはえしと返詞よく
 大津やうらたけかちとちとら
 かんたんのとうもあまの臭
 ぬくうら井たの橋く
 草末さくゆきれゆきとまゆし
 貞赤うらるる雪のうら
 夕月に若中あまふ夏後し
 せうらかちとまゆとら

草度
 梅石
 雨草
 杜若
 九起
 狐柳
 うら
 杜若

新わらぬ馳きうらるる雪陰
 洗濯うらるる雪うらるる
 いまはえとらふらうら西の空ゆき
 雪れ名残うらるる雪のうら

柳水
 草度
 芥子
 執事

右三十四人者親近之門人并其支流
 之徒也各痛哭而不能述風詞仍以
 半百韻止



悼白 各首文略

あまのこころは 春のり来 葉 芹 金

陽の光 心 居れ 草 英

もあまの 皆 居れ けり 死

くつと 夢 海を 夢 栞 石

ちと 二 居れ 少 杜 葵

世 居れ 夢 栞 石

あまのこころは 春のり来 葉 芹 金

陽の光 心 居れ 草 英

もあまの 皆 居れ けり 死

くつと 夢 海を 夢 栞 石

ちと 二 居れ 少 杜 葵

世 居れ 夢 栞 石

あまのこころは 春のり来 葉 芹 金

陽の光 心 居れ 草 英

くみしとれ 増くおきや 卯 亥 西河原

あもそく 只海ありし のまろうれ 元 智

ちりしその わさひーわ 山 古くら 万 程

山 吹を ね 多しーか ぐる 旧 々 形 とき 女

ねく ちく 旧く くらわ 沿 糸 扇 柱 付

ちりし わさひーわ 山 古くら 万 程

あもそく 只海ありし のまろうれ 元 智

くみしとれ 増くおきや 卯 亥 西河原

あもそく 只海ありし のまろうれ 元 智

ちりしその わさひーわ 山 古くら 万 程

山 吹を ね 多しーか ぐる 旧 々 形 とき 女

ねく ちく 旧く くらわ 沿 糸 扇 柱 付

ちりし わさひーわ 山 古くら 万 程

あもそく 只海ありし のまろうれ 元 智

くみしとれ 増くおきや 卯 亥 西河原

可憐人のれき 佛の花の影 印

和装のゆき 山さゆら 麦印

おのゝ 古来のきり 花の山 咲

ちり 世ふくれ 大 櫻 又

庭のけの 樹幹と 香のちり 葉 又

情し 山家の 花ゆき 梅 芳

又 花の 里れき になく 芳

御泊の 花ゆき 梅 芳
花の 影の 七人 芳

ちり 花の 影の 梅 芳

花の 影の 梅 芳

東山を 花の 影の 梅 芳
花の 影の 梅 芳
花の 影の 梅 芳
花の 影の 梅 芳
花の 影の 梅 芳



蝶の舞をよも便なきわささくれ
徳年

月をねむらふかきしおんうらや
三高

森休えきし夜もあやちる休え
杜簪

葉のあけ洲へくぬくやまき
ゆめ

石もくふ人くくはぬ軽業指
英池

三月のあけをききききき
蒼涼

雪蒸くききかききききき
明官

悔いなきし帆碇のくくききき
年歌

あつしむぬいあきし
松毛

あつしむぬいあきし
あけ

あつしむぬいあきし
富坊

一とくあきしむぬいあきし
あきしむぬいあきし

あつしむぬいあきし
壽堂

辞世

あつしむぬいあきし
橋本

あつしむぬいあきし
あきしむぬいあきし

か笑ふ事降と新流老海の橋の結此地
なれいふに言流の代流運海と主
そ外回交まられ下よりち城と場
そとくしうをさうしとと運流と主の事
三月の事年八十甲とせの流他を死
書ふすしひとくし流の流たわ即か
さハ城東ゆふちよおふと好典故写
の橋とさおわうしおふと好典

百韻を此僅に久喜は三方ハ内士
の流とあしし白舞とさうしと流とあし
うたは上運流の金玉をとれくし
ゆ流と流と仰き橋とあしと流と
あしとあしと保十三和及十三日の掛
橋とあしと柳林とあしとあし
あしと流とあしとあしとあしと



よふはれられときくよのほき
るちて国の人をい 意を 松園
徳島の伊年 糸巻ハ くらう先 未海
たきく 多ふ 茶の命 具なき 南州
子れけり くらく くれく 月 雲 糸巻
層 了りく 五位の 一 あり 南翠
折角とらひ けり 糸の 祝 水巻
り けりく 女をい くらく 糸巻
喜波

けりく 糸巻 くらく 大佛 下巻
糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻
おけり 糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻
実く くらく 糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻
と くらく 糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻
後巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻
くらく 糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻
妻の 糸巻 くらく 糸巻 くらく 糸巻



新しきものよー 珠のそー 水
孫摩碑ー 古く重くおと 井
珠のそー 珠のそー 珠のそー 黄年
菜をちる 古くは 珠のそー 徳徳
鶴のそー 八十一のそー 一 旧
一ト 妙のそー 實のそー 末 和八
之 今ふと 下り 珠のそー 如月
お汁の ぬり 珠のそー 子 孝

何事ー ー ー 在る ねる ー ー と
ら 産る ー ー 心 左 ー ー 菜 子
江 珠 子 波 壽

右一覽 五十六 吟 金畧

1904.11.21



九重に 檜わお月 の 照る 上 俱亭
田の 路の 行く 多敷の びさう ね 一 権
ちか ちか ちか ちか ちか の花 供養 之 奴

以上 五十 吟

右 水 質 金 澤 連

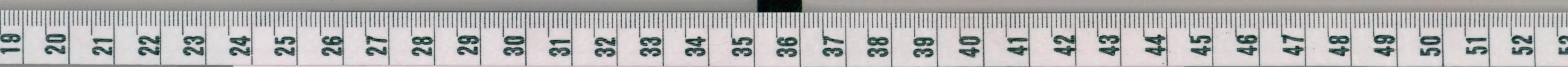
追 善 枕 紙

故 交 札

物 寄 の ころ ちか ちか ちか ちか ちか ちか
標 の 名 際 け ちか ちか ちか ちか ちか ちか
引 込 の ちか ちか ちか ちか ちか ちか
ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか
標 ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか
ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか
ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あつたは海をくわたりては
秋の葉はけしき 秋の葉の
もよほしたの木の葉をりて人の
あまにくるは 秋の葉の
いづるまじくは 秋の葉の
空へつらき 秋の葉の
さゆはの 秋の葉の
いづるまじくは 秋の葉の

あつたは海をくわたりては
秋の葉はけしき 秋の葉の
もよほしたの木の葉をりて人の
あまにくるは 秋の葉の
いづるまじくは 秋の葉の
空へつらき 秋の葉の
さゆはの 秋の葉の
いづるまじくは 秋の葉の



下馬入る船昔 いたおの末
 梅咲か根のたれたれさる藤
 根末も色をふくむわさけ風
 いかくし竹まわさる梅小
 梅あゝよわとうれ 衝ふけ
 風さるわに落るわ花小
 末 藤

越中
 保久亭

京
 高印

士口

井石

五登

末 藤

又言述傳

ちうまにるまゝくあふたう守
 柳とゆゑ 孫の先也 在ハ外
 花く暗ぬわくはをひよふハ小
 けり屋の 義するあゝに集る危
 筆跡きく 石外
 まゝ根くくして寒く一セり
 一 石
 一 石
 一 石

艾キ
 茶 権

千七
 福 々

石 外

フラニ
 柳 叟

一 石

一 石

カをた京の奴わちる休くく 茨山

あまのくればあまをたれあまの枝 栴

けいふま年たれをちるさねる 栴

あに隆月よまを(と)カたを 月

たれま(と)たれまおらま(と)ちる 栴

ハまわあま(と)ま(と)のつ子とらま 在

ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と) 栴

ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と) 栴

枝れ(と)た(と)のた(と)の 栴

ま(と)ま(と)のま(と)の(と)ま(と)の 栴

ま(と)のま(と)れ(と)ま(と)ま(と)の 栴

ま(と)ま(と)ま(と)て(と)ま(と)ま(と) 栴

ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と) 栴

ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と) 栴

ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と) 栴

ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と)ま(と) 栴

茨山

栴

栴

月

栴

在

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

栴

川ぬらひのうらたての梅のしほ

護物

ひらね入りのうらたての梅のしほ

木柴

元中入りのうらたての梅のしほ

血宜

申し入りのうらたての梅のしほ

怪舞

舞は入りのうらたての梅のしほ

換女

性まゝのうらたての梅のしほ

原静

折らぬうらたての梅のしほ

玩南

梅のうらたての梅のしほ

八る善

めいさのうらたての梅のしほ

由推

眼まゝのうらたての梅のしほ

素撰

めいさのうらたての梅のしほ

美以

えりしりのうらたての梅のしほ

丁亥

一輪まゝのうらたての梅のしほ

花伝

しらゆりのうらたての梅のしほ

草花

ひらね入りのうらたての梅のしほ

白起

ゆるぎのうらたての梅のしほ

麻文

澤



おれをばあはれに嘆くは

清くは雪の如くは

おれの小庭に花をば

啼くは鳥の如くは

おれをばあはれに嘆くは

清くは雪の如くは

おれの小庭に花をば

啼くは鳥の如くは

おれをばあはれに嘆くは

清くは雪の如くは

おれの小庭に花をば

啼くは鳥の如くは

おれをばあはれに嘆くは

清くは雪の如くは

おれの小庭に花をば

啼くは鳥の如くは

波田

詠歌

粗文

匠斎

氷松

楚南

三モラサ
梅山

ヒシキ
望景

右舟

柳昇

心所

出所
古書

二丘

ニシテ
石

カヒ
人

カヒ
外

し断わめかふたれとふころも 居る
新やねのほひくあつくはふと 重宝
ゆきまのきふとたき 外ねやま 可轉
まきまきとつけまきま 袷のしり 表止 ^{スルカ}
まきまきとつけまきま 袷のしり 景文
大ねのまきまきまきま 山 兄珠
おれまきまきまきま 直くおうけり 健山
横まきまきまきまきま 山 ^{三州} 休里

横まきまきまきまきま 大ねのれ 表江
横まきまきまきまきま 山 丁月
まきまきまきまきまきま 山 夕名
まきまきまきまきまきま 山 ^{三カハ} 三葉
まきまきまきまきまきま 山 表竹
まきまきまきまきまきま 山 派地
まきまきまきまきまきま 山 薩守
まきまきまきまきまきま 山 六段



菊のわが心はあつた小供とま

うらなはるあつたあつたの心

なつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

...

福石

朱芳

仙菜

釜前

一應

...

完仕

貞山

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



此の崎くははのわふをなす
 奥にわくのわく入りしれ
 くのわくをわくゆりて見ゆ
 菊のわく山ふとわくのわく
 かりきり 世にわくゆりて
 此のわくをわくゆりて見ゆ
 一のわく 木のわくをわく
 此のわく 角力大にわく
 省 者

此の崎くははのわくをなす
 奥にわくのわく入りしれ
 くのわくをわくゆりて見ゆ
 菊のわく山ふとわくのわく
 かりきり 世にわくゆりて
 此のわくをわくゆりて見ゆ
 一のわく 木のわくをわく
 此のわく 角力大にわく
 省 者

此の崎くははのわくをなす
 奥にわくのわく入りしれ
 くのわくをわくゆりて見ゆ
 菊のわく山ふとわくのわく
 かりきり 世にわくゆりて
 此のわくをわくゆりて見ゆ
 一のわく 木のわくをわく
 此のわく 角力大にわく
 省 者



松の枝のこゝろ凍のまげぬるこ
葉のまやちのふのふはなをれし
葉と松ふまきつむも葉の
しんじつと葉のまやち松のま
松のまのまをらりけり
山かふたのまやちのまやち
松のまのまのまのまのまのま
松のまのまのまのまのまのま
松のまのまのまのまのまのま

松村

菅備

省南

石山

竹考

米年

旭下

ふ二松

松の枝のこゝろ凍のまげぬるこ
葉のまやちのふのふはなをれし
葉と松ふまきつむも葉の
しんじつと葉のまやち松のま
松のまのまをらりけり
山かふたのまやちのまやち
松のまのまのまのまのまのま
松のまのまのまのまのまのま
松のまのまのまのまのまのま

茅岳

濱海

灰外

松島

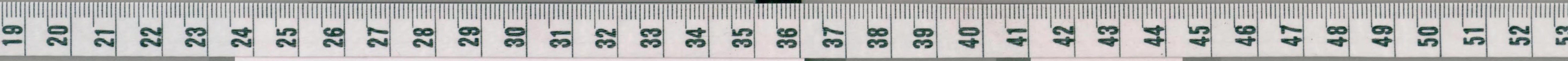
赤涼

冬令

赤梁

秋栲

漢



あまのつとむらひのつとむらひ

其コ 止る

とけふあまのつとむらひ

其ハ 止る

とけふあまのつとむらひ

一 止る

とけふあまのつとむらひ

一 止る

とけふあまのつとむらひ

一 止る

とけふあまのつとむらひ

一 止る

とけふあまのつとむらひ

一 止る

とけふあまのつとむらひ

一 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

あまのつとむらひ

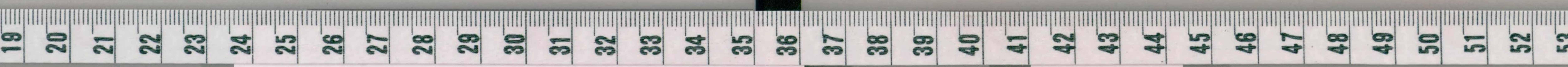
其ハ 止る

あまのつとむらひ

其ハ 止る

其ハ

其ハ



まの ぬき 田 毎 一 枝 ち さ せ くれ

の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

枝 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

少 ね の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

人 の ま ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

不 也

瓜 菜

画 色

和 子

高 陵

一 斧

古 卷

松 年

七 傳

葛 丈

古 岳

古 岳

古 岳

古 岳

古 岳

古 岳

古 岳

卯うさぎのうらみをいふ

卯うさぎ 卯うさぎ

あはれさうのちあはれあはれ

あはれ

楊やなぎのゆわくふん

楊やなぎ

たのむらさき

たのむ

うらみのさのさ

うらみ

せつこく

せつ

お市おちやうのうらみ

お市おちやう

あはれさう

あはれ

一いちとさう

一いち

お子おこにわ

お子おこ

いれつ

いれ

梅うめのさ

梅うめ

あはれさう

あはれ

あはれさう

あはれ

あはれさう

あはれ

あはれさう

あはれ

世



枯さうく柳のやうになつてゐる

兼如

新芽も 起つてゐるやうに

馬坊

小庭にもまた木のつぼみ

兼如

山崎のふもとに

る 歌

大地のぬえのうら

窓 白

そとに

活 浪

小舟のうら

岸 池

ふたつ

芦 舟

海を渡る

席 燈

舟のうら

兼 舟

舟のうら

兼 舟

舟のうら

兼 舟

舟のうら

兼 舟

舟のうら

兼 舟

舟のうら

兼 舟

舟のうら

兼 舟

百の葉をなすかす枝をかりしり

玉石

冬後しとゆきおちるゆりまうれ

葉電

阿や免責とまふき免れはる

巨泉

了くわふ葉のゆるる 笠のうら

素堤

おのわかのゆくれゆり

無業

おのわかのゆくれゆり

高翁

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

玉行文 五礎

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

古魚

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

古雀

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

魯川

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

工丈

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

一頁

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

季生

あまのつゆをなすかす枝をかりしり

之助

五

来文の傍より其をふ 柳の節

舞臺の傍より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

柳の節より其をふ 柳の節

之候

生化

秋座

三折

林彦

滝彦

中彦

平彦

北彦

吉翁

吉翁

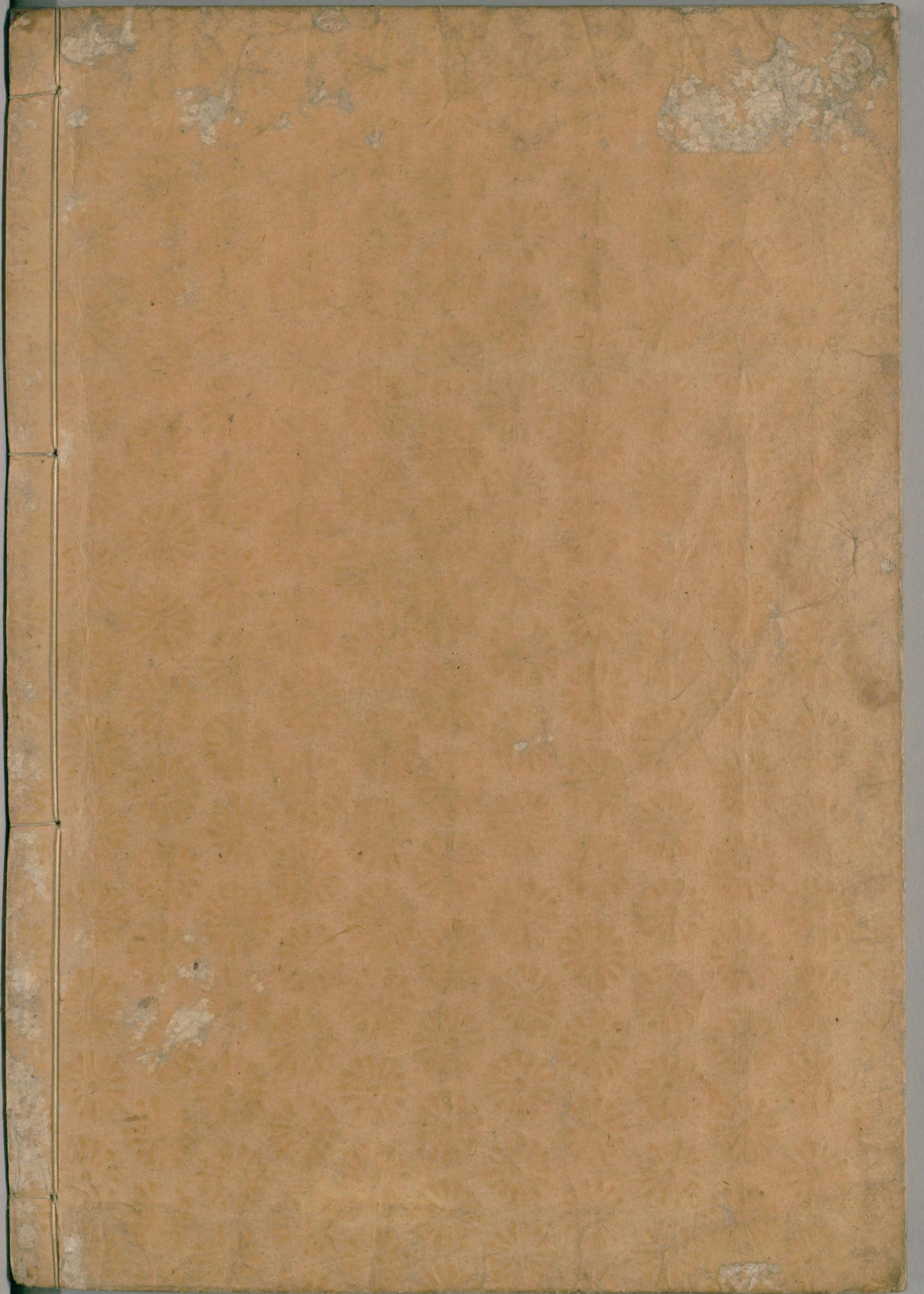
吉翁

吉翁

吉翁

吉翁

吉翁



国立国会図書館 タイトル『夏かはつ』 請求記号 863-144

ガラス使用